

定価 一月五拾圓 半年三拾圓 一年六拾圓
 廣告料 五圓 印刷料 一圓 送料 一圓
 日曜日の翌日休刊
 發行所 常盤町 臺灣紀行社
 電話 四七五番

臺灣紀行

伊東 一

十一月十五日夜半からの吹き降りは一寸凄かつた夜が明けると雨こそ止んだが風は未だ納まらない、寒さも一通りでなかつた、午前十時に門司の宿を出て郵船の待合へ来た、外には寒むい風が吹いて居る、船は十時半と十一時半のハシケを出すとの事で十時半のハシケに乗つて『よしの丸』に移つた、臺灣航路船は大連釜山行より船は大きい、皆一萬トン以上はある。昨夜からの吹き荒れて今日は波も荒いと覺悟して正午過出帆した。名にし負ふ玄海の荒海も風の割に大ゆれもなく夕方博多沖を出てしまつた、それでも乗船客は三百人以上あつた、船は二日か三日をき立つので多い時は五六百人あると云ふ。三十人からの團體なので余等は幹部として優待の意味で二等の船室に納つたが反つて三等席の方が面白いので皆んなと一しよに騒ぎ廻る飯だけは二等の食堂で食べたが別に大して三等客との變りもない、献立が違つて居る丈だ、いつもなら正午に着くのだが荒れたので遅れたと云ふ、十七日の午後

四時頃遙か右手に數艘の美船を見た、支那のかと聞けば流球のだらうとの事。門司を立つ時は冬仕度だつたが臺灣は常夏の國丈あつて十八日は船の中も蒸し熱くなつて来た。十八日午後二時頃遙か左手に小さく島が見へだした

門松は外から見て左方が雄松、右方が雌松だ、注連縄は左捻を制とし三筋五筋七筋と順に藁莖が垂れてある

臺灣のこつちの小島だ臺灣が見へ出してから基隆迄は二時間位の關係で荒れると聞いたがそれ程でもなく基隆へ着いた、臺灣の要塞地帯港は奥深くある、右手岸壁には船も横付けになる驛のホームに連つて居るが我等は向岸へランチで廻つて上陸して臺灣へ第一歩を印した。

童話

なまけ鼠 (一)
 斧 青三郎
 忠太は或る田舎の乾物屋の縁下に住んでゐる、とても怠け者な鼠でした。仲間の中でも一番體格が

良いし、又一番力持なので誰でもこの忠太を怖しく思つて居りますので、忠太は大そう増長するやうになりました。

小さな鼠達がせつせと働いてゐるのに、毎日、毎日何もせずに遊んでばかりおりました。そればかりでなくお友達を泣かしたり、撲つたりそれは、それはとても亂暴をするのでした。そして又お腹が空いてくると、お友達のお家に無断で上りこんで、戸棚や茶單笥を開けてお美味しいもの

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇明日の献立〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 【朝】 味噌汁—里芋
 【晝】 カキ飯 昆布茶
 【晩】 牛肉 すき焼き

或る日の事、忠太はどうかして毎日外へ出ないで家の中で寝てゐて、お美味しいものをうんと喰べる工夫はないものかと腕をくんで朝から考へ込んでおりました。『さうだ、さうだ。旨いことを思付いた』と一人で笑いながら兩手を打ちました。そこで多くさんの仲間を集めてとても親切者らしく

聲高く申しました。『皆さん！我々は身體を丈夫にして大いに非常時國家の爲めに働かねばなりません。そこで皆さんも私のやうに丈夫な體格にならなければなりません。それは毎日の食物をよく調べなければなりません』忠太は得意満面に熱べんを振りました。

『つまりこの食物に毒があるか無いか、又栄養分が多いか少いかを知らねばなりません。この見分方はとても皆さんには出来ませんで、私が皆さんの爲めに毎日食物について嚴重な検査をして上げませう。さうすれば皆さんも私のこの體格の様に立派になる事が出来ませう』と怖い眼を四方に放ちますので誰も反對する人がありませんでした。『皆さん！異議はありますか』『賛成！、賛成です』それから忠太は毎日毎晩運んで来る食物の検査にとりかゝりました。

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫

平町南町 電話三〇七番 平看護婦會

美味！ 芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

美味で！ 評判の...
 イワキ サロン 電話 352

看護婦急派の求めに應じます
 平町南町 電話三〇七番 平看護婦會

喜多流謡曲と仕舞のお稽古をお勧め致します
 平田町六九 電話一二七番

旭硝子株式會社製品 板ガラス
 赤菱印 菓 子 壘 硝子 食器 其他各種
 松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

ハシモトヤ糸店 電話十四番
 毛糸が御安くなりました 相かわらず御用命の程を
 並毛糸一オンス 十二錢五厘 極太毛糸
 中細 極細 スキー印 ダイヤ印 アトラス ビーハイブ ホワイイト ヒーサ

外科 X光線科 性病科 外科
 安齊外科醫院 電話四七五番

消防顧問に徽章

平署管内八十名に傳達

既報平署では昨年中より管内消防組の各顧問八十名に顧問徽章を贈る事となり此程漸く出来上つたので来る十六日午後二時より是が最初の徽章傳達式を神谷小學校で行ひ同村消防顧問志賀久三郎氏外六氏に贈呈すると

新選組に新手を

加へて陣容成る

平署の特別警察隊

平警察署の新選組と云はれる特別警察隊は過般行はれた署内巡査の異動で缺員を生じたから今回左記五巡査を加へて陣容を立て直した

佐藤今朝雄 井上潔 渡邊定藏 熊田義壽 關口忠孝

町村長會評議

石城町村長會は来る十一日午後一時より平町役場會議室に於いて評議員會を開き八年度豫算決算に就いて協議すると

平窪村農業倉庫の

竣工披露に品評會

平窪信用組合では昨年中工費五千餘圓を以て農業倉庫を建設本五日より三日間竣工式を兼ねた農産品評會を開くと

初町會

十三日開會

平町では本年最初の町會を来る十三日午後一時より役場會議室に開き風水害救済米の決済及び新川町中野勇吉氏の戸數割賦課異議行政裁判に關する件區長推選等を附議すると

町村吏員

互助會設立

石城町村長會總會は来る十二日午前十時より平町役場會議室に開き九年度豫算並びに新設される町村吏員の互助會の設立等に就いて協議を行ふと

小名濱町

魚市場の

町營至難か
小名濱町では町會で議決された魚市場町營問題に就いて

て八名の交渉委員が經營者である漁業組合と交渉中であるが組合では町當局が經營を水産工業會社に委託せしめるとの意向を知つたので町の要求に應ずべきでないといふ強硬な態度を現はして居る爲め解決至難と見られて居る

長橋區議改選

平町第一區(長橋新町)では昨日午前八時より福の湯を投票場と定め區長川角兼吉氏其他立會の許に區會議員の選舉を執行したが當選者は左の如くである

- 五〇 川崎文治 五二 關内半平、四七 小野園次郎、四〇 龜岡與惣治
- 四〇 高子敦藏、三九 山田榮松、三六 遠藤松之助、三四 遠藤柳之助
- 三二 小幡留次、一七 遠藤林三 次点一七 渡邊富三

卓球の

選手權大會

平第三小學校卓球部主催第三回郡下卓球個人選手權大會は來月廿八午前九時より同校講堂に開かれるが會費三十錢で一般の出場を希望して居るが申込期日は廿六日迄である

平町人事

- 回出 生
- △一丁目三一 飛田莊一氏
- △二男莊二郎
- △新川町一七 當時石城郡植田町字横町一三菊地圓次郎氏長女女子

△彌宣町六八 鈴木三郎氏

△高月一 星野ウメ(六三)

△番匠町一九 馬場新太郎(四一)

常設館たより

平館 日活現代劇 久松美津江 花井蘭子主演
『祇園しぐれ』日活時代劇 片岡千恵藏 高津慶子主演
『國定忠治』完結篇 ユナイテッド全聲日本版ボームムー主演 『暗黒街の顔役』

世界館 松竹ニユース 新興現代劇 中野英治主演
『間貫一』松竹時代劇 阪東好太郎 飯塚敏子主演
『兄貴』松竹現代劇 伏見信子 大日方博主演
『處女よさらば』

平百面鏡

一億萬圓

消火器の偉力

平町銀治町大嶺商店では此程二億萬圓消火器の福島縣一手販賣を引受け大々的に賣出しを開始したが右消火器は從來ありふれた物と異なりガソリン其他請油の火も瞬間に消火し硫酸を用ひない爲手足衣類等に附着しても絶対に損傷する事なく取扱ひが安全簡單で過日の平消防組出初めにも實演して頗る人氣を博したが値段は三十圓、薬品は一組一圓五十錢である

一 東部電の サービス 東部電業所では需要者に對するサービスの一端として電球交換料從來一ケ十錢を五錢に値引し休燈料は空屋に限り徴収する事に決定去る一日から實施してゐる

長唄
花柳流 御稽古をおすめ致します
平町七二 花柳舞踊流 研究會 所
花柳徳三郎 杵屋十茂代

花柳外科 柳病科 専門
院醫科外村木
際橋目丁五町平 りあ便の院入炊自
○九三話電

市原醫院
平町 田町
電話一四番

▲無硫酸 ▲不凍
▲泡梁 ▲強力
特許貳億萬圓消火器
福島縣一牛特約店
專賣特許 泉屋 大嶺商店
實用新案
假事務所 平銀治町二九
電話五〇三番

玉屋洋品店
平町田町通電話五六番



吸入用酸素 純度 99%
体温計
寒暖計
度量度モノサシ
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番

三井タクシー
平町二丁目 電話六八五番

幼い赤誠

兵隊さんの身を温くと

兎の皮を寄贈

平第一小學校五年生一同は去る四日過般來飼育して居た兎二匹を毛皮にして

「これは昨年春から可愛がつて飼つて來た兎の皮ですが國家の爲めに寒さを厭はず働く兵隊さんの身には代へられませぬから」との文面と共に福島聯隊區司令部に寄贈した

學童年賀

學校で取纏

神谷小學校では校内にポストを設け兒童の年賀郵便を取り集めた處四千餘通の多數に及んだと

炭層に頭を

強打して即死

好間村大字上好間字椎木平居住茨城縣行方郡太田村字失場生れ長峰芳信(三)は昨五日午後三時頃同村萩原炭鑛第二斜坑内より昇降機にて上昇中身體を外部に乗り出した爲め炭層に頭部を強打して即死した

學習帳展覽會

平第一小學校では來る十日より四日間全校兒童の書初め展

町内一週

耐寒行軍

平第一小學校では今月下旬全校兒童の町内一週耐寒行軍を催すと

刑務所の

在監者數

平刑務所に於ける目下の在監者數は十六名で昨年の同期に比し三名程減少してゐるが犯罪別は殺人未遂一名放火二名他は全部窃盜であると

しめる爲め毎日放課二時間宛の豫定である

古物商の幹事

平古物商組合では去る二日谷口樓で總會を開き幹事改選の結果幹事長に渡邊貞吉氏が當選した外新任幹事左の如くである

- (幹部) 渡邊貞吉 横田平 藏 山田繁一郎 佐藤理介 鈴木義重 石井龜吉 鈴木政治 他田専松 降矢義春 鈴木繼男 清野

千把の藁に點火

内郷村の火事騒ぎ

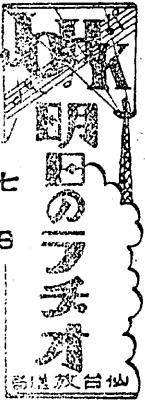
内郷村大字高坂字仲平八六農萬四郎二男遠藤照夫(六)は四日午後三時頃兩親の不在中自宅裏に積み重ねてあつた藁ボツテ附近で燐寸に火を付けた處火は千把の藁に燃移り大車に至らんとしたのを附近で野良仕事をしていた居た近所の者が駆け付け消し止めた

老労働者が凍死

身元が判明しない

内郷村大字宮字金坂地内村道に四日午後四時頃六十五才の勞働者風の男が凍死して居たのを通行人が発見し居たので検視した

平署に届出たので検視したが身元判明せぬので村役場に引渡して假埋葬に附した



明日のラジオ 今夜は北西の風晴曇明日は南西の風曇後晴

- 今晚の部
- 後六〇〇 子供の時間
- お話 良寛様 原田勘平
- 後六二五 二元放送東西
- 對局將棋大手合 第六日
- 後七三〇 時事解説
- 後八〇〇 祝唄

- 明日の部
- 後九三〇 時報 ニュー
- ス 氣象通報 番組豫告
- 前九三〇 子供の時間
- 新年子供演藝大會
- 前一〇〇〇 宗教講座

- 前一〇四〇 講演「小説と芝居」東北帝大教授小宮豊隆
- 後〇五〇 満洲より「女流演藝の午後」
- 後一、二〇〇 さやりの、テコロ、小車の歌、ハ、くせり松 壽其他
- 後一、四〇〇 清元「豊春名集壽浄るり」清元小寅其他
- 後二、〇〇〇 歌澤 歌澤寅
- 後二、二〇〇 新内「關取千兩職」鶴賀吉之助
- 後二、四〇〇 常磐津
- 後三、〇〇〇 長唄
- 後六、〇〇〇 子供の時間 童話劇「初春」BKコードモサークル
- 後六、二五〇 職業ニユース
- 後七、三〇〇 人形浄瑠璃 (文樂座より中継)
- 後八、三〇〇 獨唱とピアノ
- 後九、〇〇〇 落語「一目あがり」三遊亭金馬

新年の謡曲會

平町さくれ會の新年謡曲會は明日午後一時から平鐵道俱樂部樓上で開かれる

内郷火防注意

内郷村防組では防火思想涵養の爲め明日七日全組員が出勤して各戸に互り防火の注意及び施設の点検を行ふと

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △商店員 二十五才 月十二
- 二圓外面談
- △商店雜役 尋卒 月十二
- 三圓
- △女中 十八才 委細面談
- △蒲鉾屋下働 三十迄 月十圓

科人婦科外 院醫坂井

町田町平 番九五五話電

印刷物の御用命は總て 常磐毎日印刷株式會社 電話三六〇番

- 回職を求める方
- △小商店員 十六才 高卒
- 給料面談
- △店員 二十一才 中三修
- 給料面談
- △農夫 二十六才 尋三修
- 給料面談
- △土工夫 五十二才 尋卒
- 給料面談

日本に唯一つ 魂の這入つた

東京工場

聯盟の自轉車

指定販賣所 フタバ商會 平新川町・橋際

高久病院

- 院長 醫學士 高久 忠
- 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
- 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
- 平町田町 電話五一三番
- 内科小兒科
- 耳鼻咽喉科
- 外科花柳病科
- レントゲン科

近火御見舞御禮

去る四日近火の際は遠路の處早速御馳付け消火に御盡力被下以御蔭大事に至らず候段厚く御禮申上げ候一々拜趨御禮可申上等の處混雜の折柄乍略儀以紙上御厚禮申上候

四家酒造店

内郷村(電話綴四番)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演 山本英春畫

第百二十五回 不逞の徒の集り

不逞の徒の集り

河『就ては傳右衛門、最前岡山侯御隠居に村正の御買上げを願ひたるは誠に好い手掛り、實はアノ御仁は時の老中越中守とは心合す、勤王無二の御方と承知いたす、若し然る時は此の村正を手掛りに岡山侯の屋敷へ立入り、巧く參れば一味の内へ入れ申さん心底なれども何うであらう』

傳『成程深いお考へ恐れ入りました、何れにせよ朝廷の爲めにお盡しなされる思召悪いことではないまでも、精々秘密が洩れぬ様御用心が肝要でございます、それにはくれぐれも申し上げますが行ひを正しく遊ばして……』

河『イヤそれはいふてくれな、全く生活のため……』
傳『その事なら私も多分の事は出来ませんが、お手づだひは致すつもりでございます』
河『それは千萬辱ない何分頼む』
と傳九郎心の中でシテやたりつと喜んだのはさもある、これが抑々傳右衛門引入れの目的であつた秘密の話も終つた所へ隔

の襖を開いてそれへ立出たのは彼のおゆき丁寧に手を仕へて
ゆき『何もございませぬが一口召上つて下さるやうに……』
傳『これは、御妹子様でございますか、流石は都育』



河『それでは雪枝強て御引留申すも無禮、差控へたが宜しからう』
ゆき『畏まりました』
傳『テハこれで御暇をいたし、いづれ改めて伺ひます御如才もございませぬまいが千丈の堤も蟻の一穴より崩れるの誓へ、必ず御油断遊ばすな』

ち御綺麗な事でございます、私事は親旦那様の御恩を受ました傳右衛門と申します者、何分宜敷御願ひ申します、折角の御待遇でございますが、今日は少々取り急ぎますゆえお預け申置きます』

つて下さまし』
と挨拶もソノノに佐野屋傳右衛門は出て行く、其の後姿を見送つた傳九郎とおゆきニツクリ笑つて
傳『おゆき、思ふ盡だな』
ゆき『ハイ、シテ是からの御仕事は』

傳『アノ馬鹿爺め此の傳九郎を飽までも天方采女と心得て連判状へ名前を記し、血判までして行きをつた、是からこの連判をいひ立つて佐野屋の身代を手の内に丸め込むのが此方の仕事だ然しゆき其方は采女采女といふ名を聞く度に餘り好い心持はしなからうな』
ゆき『何の今更末練らしい去年吾妻橋でお前にいひ寄られた時は憎くも思ひ恐ろしくも思つたけれど、段々お前の親切を見るにつけ采女さんの事はどこへやら、それからお前に身を任せ、朱に交はれば紫も色を失ふ振袖の長い浮世に短い命と悟つてからは悪事の手づだひかうなつて見れば薄のろの采女さんより男らしいお前に心の錠前をピンとおろした私ゆえ、モウ、そんなことはいつてお呉んなさるな』

傳『イヤ口ではさういつてゐるが若も采女が死んだとでも聞いたらなかなかにやゝゐられまい』
ゆき『何の一旦思ひ切つた男、死なうが生さやうが勝手次第、悲しいとも嬉しいとも思ふものではござんせぬ』

とこの女中々現代式の所がある、處へゾロと入つて来たのは浪士組の面々
○『河合氏、今の話の首尾はいかゞ』
傳『お喜び下さい先づい、金穴を手に入れた』
○『それは重疊』
ゆき『幸ひ今調へたお酒の支度、これを皆さんへ……』
傳『オ、い、處へ気が付いた』
と其處へ膳部を取出したし傳九郎先づ盃を取り上げて傳『サアおゆき酌をいたせ……』
と後は酒宴に夜の更くるのも知らぬと云ふ有様、此方は岡山の隠居一心齋本所の下屋敷へ歸邸の後、家老池田彈正を呼んで今日云々に村正の刀買上げの事を約したと云ふ話をなされた所彈正が眉を顰めて
彈『京都の者に天方采女と申す者は拙者も心得ませぬが、象ねて承はる天正の昔岡崎三郎殿切腹の砌、御介錯の役を勤めましたのが天方山城守道經と申のやうに覺えて居ります、それと同姓の天方の家につたはる村正と申せば或ひは岡崎殿を御介錯いたした刀にして、采女と申すは山城守の末葉にて京都へ移住いたし者にはあらぬかと心得ます。』

外科

門 專 科 線 光 X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

体温計の検査日です
お宅の体温計は？
10日
検査機新設
◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の検査日御利用下さい
度量衡 指定販賣人
計量器
西村屋藥局
電話 番

中村齒科醫院
平町 鍛冶町七

ほしやなぎ
いかの鹽から
鱈の子



魚問屋
店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電)目丁四平